# 『忘れられないある経営者の生き様』
## ―畑中家十訓―

税理士　高井法博
高井法博会計事務所
TACTグループ関連11社代表

去る十一月十五日、出張先の熊本に私の尊敬する㈱マルトウコンパックの創業者畑中力相談役の訃報が届いた。生前よりご本人から弔辞は私にやってほしいとのたっての御希望があったと御聞きし、ホテルに帰り朝までかかって書きあげた。

予測はしていたとはいえ現実となると、これほど優秀で話しが理解し合える人がこの世から消えてしまわれたことが残念で、余りにも勿体ないと思う。職業柄、名経営者にも何人か御逢いする。畑中相談役はその中の終生忘れることのできないお一人である。

今から二年四ヶ月ほど前、直接畑中相談役から検査入院をするとお聞きした。その後、すぐに手術をされ退院と共に『是非お会いしたい』との連絡をいただいた。お会いすると、いつもの様に、にこやかにお出迎えいただき『病気は胆管のガンが全身に転移しており全快は不可能である。こんな状況とは夢にも思っていなかったので、事業継承については考えてはいたが具体的には、何ら対応がされていない。残された期間、全力でできる得る限りの自分亡き後の事業存続、継承対策を行いたい。また妻や子供に対しても私が死んでも困らないようにしたい。ありがたいことに、突然の死ではなく、長くはないが残された時間がまだ若干あるので自分の人生の整理もしっかりと行いたい。ついては全面的なバックアップをお願いしたい』と、淡々と取り乱すことなく理路整然と話された。その後、娘婿であられる明人氏と十分に話し合われ明人氏も力社長の意思を継ぐと決断をされ、平成十四年に社長を譲られ自らは相談役に就任された。

病気について現実をありのままに受け入れ、それ以後、以前にもまして物事を、正に論理的科学的に冷静沈着に病魔に犯された体をコントロールしながら、自ら亡き後の会社存続のための施策を次々と決断し実行された。そして、税務顧問の他にご依頼をいただき経営顧問として、役員会議にも出席させていただくようになり、今まで以上に相談役の経営の真髄を目の当たりに見せていただくこととなった。亡くなる数週間前にも、次々と相談があり、殆ど体の自由がなくなられ、生きておられるのが不思議な状況の中で、最期の最期まで前向きな、更に屋上屋を目指す相談が出てくる。その一つ一つが誠に経営の原理原則にかない、この後に及んでも自分に厳しく、事業に対しても妥協を許さぬ厳しさを持ち続けておられた。私の主催する経営計画作成ゼミにも時間をやり繰りして六十才を超えられてからご参加いただき、今後の会社のあるべき姿、創業の精神、志について記され、現社長にしっかりと引き継がれている。

発病なさった後、相談役に素晴らしい考え方を文書としてご家族に遺していただくべく家訓の策定もご提言し『畑中家十訓』の作成もしていただいた。自らが起した事業の未来永劫の発展を決して諦めず、強く願い続けると共に、経営者として、立派な社会人・家庭人としての生き方やあるべき姿をしっかりと自分の生き様を通してお示しいただいた。最期の最期まで前向きに実行される一流経営者の凄さ、折れ目切れ目をしっかりとつける正に男の美学、生き方をしっかりと拝見した。

生前作られた『畑中家十訓』をいつの日にか一期一会紙上で紹介させていただきたいとお願いをしたが固辞された。しかし、十月に、再度お願いをしたところ私にお任せをするとのことであった。よって巻末にその全文を掲載させていただき皆様の経営の、また生き方の参考にしていただけたらと思う。最後、㈱マルトウコンパック　故畑中相談役の御冥福を心からお祈り申し上げます。

### 『畑中家十訓』

**一、人のやらない事をやれ**
他人が歩いていった道にはいい草は生えていない。人のいやがる道、やらない所にこそ宝が埋まっている。人の行かない道を歩いて、新しい価値を見いだすことは、真の人生の生き様だと思え。

**二、人間、窮することはないものと思え**
人間はどんな苦境に立ち至っても窮することはないものと思え。窮すると思うは窮する心の影がそうさせるのだ。とことん困極まっても、乗り切る根性さえあれば道は必ず開ける。その先の光明を信じよ。

**三、博打にのめりこむな**
博打は身を滅ぼす、家をだめにする。ちょっとしたパチンコや遊びの麻雀程度以上に博打にうつつを抜かす人間は、品位を落とすばかりでなく信用もなくす。

**四、無謀な借金をするな、約束手形を切るな**
銀行が金を貸してくれないようになったら、それ以上の借金はもうするな。安易な気持ちで手形を切るな。手形は苦労を後回しにし、かつ倍加する。また、町金融には手を出すな、身を滅ぼす。

**五、恕の心をもって人に当たれ**
恕とは思いやりの心をいう。特に目下の者に対して、「本当に幸せなのは何か」を見極めた恕の心で接せよ。今の厳しさが後の幸せに結びつくことを弁えれば、目先の甘やかしがためにならないことは明白だ。

**六、安易に他人の保証人になるな、金を貸すな**
安易な気持ちで他人の保証人になったり、金を貸したりすれば、後で大きな苦労をしょって立たなければならないことになるばかりでなく、その人との縁が切れることになるものだ。「金の切れ目が縁の切れ目」

**七、社稷を主とせよ**
社稷とは神の居ます所。小さな単位でいえば家庭、大きくは国家のこと。まずは家庭を大切にするところからはじめよ。家の主を立て敬い、国を重んじるところから皆の幸せが始まる。

**八、師と友を大切にせよ**
生涯頼りになる師と友をつくることは誠に重要なことだ。師を心から敬い、友を慕うことは自分の人生を幅広く豊かなものにする。

**九、子を甘やかすな**
子を育てるということは、子の全人格を形作ることであり、そのために全責任を負うということである。感情的に折檻を与えてはならないことはいうまでもないが、子におもねるだけの甘やかしは絶対によくない。その子の将来をだめにするだけだ。筋の通った価値観と厳しさで躾けをせよ。

**十、もったいないの心を忘れるな**
もったいないの気持ちは、身の回りのものを大切にする心から生ずる。苦労した経験に思いを致す余裕と、感謝の気持ちがあれば、ものを粗末に扱うことはできないものだ。もったいないの気持ちは必ず後に幸せをもたらす。
以上十訓を畑中家の家訓とする。
もって拳拳服膺すべし。